

東久留米市立西中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・総じて、与えられた課題に対しては意欲的に学習に取り組もうとするが、自ら疑問をもって学習に取り組むという点はやや不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解のポイントとなる場面において、教師が問題を示すのではなく、生徒にポイントは何か、問題となる事柄は何かを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のポイントをどう捉えたか、振り返りシートに記入させ、確認する。その際、学習したことを基にして新たな疑問を見出すことを求める。以上のことを3分の2の生徒ができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な漢字や語彙が身に付いていない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の單元ごとの漢字に加えて、2学期に5年生の漢字、3学期に6年生の漢字に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2学期から、毎週漢字の小テストを行う。8割の生徒が8割得点できることを目標とする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の生徒は、資料を読み取る際に正しく読み取れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの資料からどのような情報を読み取るのか、読み取った情報の事実と意見や推論の区別を明確にさせて読み取る機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査で出題し、半数以上の生徒が正答できるようにしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習事項との関連に気付き、知識を活用して説明することを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習事項との関連性に気付かせる発問を適宜行う。また、多様な意見に触れ、説明する機会を増やし考えたことを記述させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のまとめで短文記述を書かせ、半数以上の生徒が知識を活用して説明できるようにする。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の生徒の提出物に対する意欲が低い。根気強く取り組む姿勢が身に付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成功体験を多く与え、挑戦しようとする態度を育てる。また、可能な限り寄り添い、アドバイスをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週末プリントの提出率が9割以上となるように呼び掛けを行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題や応用問題に対する正答率が低い、技能や知識はあるが、活用できていない様子がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って、問題を解くという場面を多く与え、今までの知識を使い、新しい知識を身に付ける経験を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査で出題し、5割以上の生徒が正答するように授業をしていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習に対する苦手意識をもつ生徒が多い。自然現象について、暗記すればよいという考えがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い（教え合い）活動を充実させ、今まで理科が苦手だった生徒の学力を引き上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査において50点未満の生徒を最低でも3割未満にする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から、自然現象について順序立てて説明することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、理科的側面での見方・考え方ができるように、説明・発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験プリントのまとめで要点を捉えさせ、定期考査で確認する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の既習事項と結び付けたり、他教科の学習と関連付けたりすることが不十分な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的に音楽科の学習を進められるように、他教科の年間計画を調査したり、既習事項の話題を授業内に盛り込んだりして、他の学びと関連付けられるきっかけをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習（単元）のまとめをする際に、既習事項や他の学びと関連付けて、生活や社会と音楽とのつながりを考える。5割以上の生徒がそれができるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・自分視点での捉え方はできるが、既習事項や他者の考えを活かして視点を広げることには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に関連する既習事項を適宜提示したり、生活の中にある美術も話題に入れながら、より深い学びができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○半数以上の生徒が、制作意図の説明や授業のまとめの際に、生活との関わりや既習事項との関連を踏まえた記述ができるようにする。（ワークシート）

保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの体力評価で見ると、標準的であるといえる。器械運動などのクローズドスキルの習得率に課題はあるが、球技のオープンスキルの習得率は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な運動技能の習得を目指した授業展開が必要である。導入部では体の使い方について主に指導する。（その際、動作習得に向けたイメージを膨らますために、学習カードや掲示物に連続図を用いたり、その連続図にオノマトペ等を書き込ませたりする。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の行動観察と学習シートによって、検証・評価を行う。正しい体の動きを理解し、書き表せるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・技能習得に向けた、具体的矯正のポイントの理解は深まってきているが、相手に伝えることや文章で説明する力には課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい動きを理解する視覚的な情報を用意する。その際、ペア学習を用いてお互いに学び合う時間を作り、ワークシートに運動の課題、目標、練習の工夫、成果等を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎動作の説明や、運動の目的について書けているか評価し、個別に指導（コメント記入）を行う。学習プリントの提出率8割を目指す。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成に関わる仕事に関する知識が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成に関わる人たちの工夫や思いを動画等を使って理解させ、職業観を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物育成に関わる仕事とその工夫や思いを明確に挙げることでできる生徒を7割以上にする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培実習を前向きに行えない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程を細かく図解し、自分の考えで進められるよう工夫し、達成感が味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業工程についてしっかり理解ができるているか、各学期の考査で確認する。5割以上の生徒が正答するように授業をしていく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素とその働きについては理解できている生徒が増えた。住生活への関心も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー・ユニバーサルデザインについて自分の住生活と重ねて考えさせ、安全な住まい方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の家の住まい方を振り返りバリアフリー・ユニバーサルデザインについて考え工夫する課題をだし、安全な住まい方の工夫内容を評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養素分類が理解できていない生徒がまだまだいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・違う分野の学習時も問答形式で数問授業で行う。考査で必ず出題する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各学期の考査で確認する。5問以上出題する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を理解することや、長文読解に意欲的な生徒が増えた。 ・英語で表現すること（書くこと・話すこと）を苦手とする生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のことを英語で話したり、相手の話に相づちを打ったり、質問したりできるようなパターンを授業の帯活動に取り入れ、チャットの時間を設ける。 ・教科書の長文で、英問英答や英語による正誤問題などの読解問題演習を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎2学期と3学期1回ずつ、ALTとの会話テストを行う。（8割以上得点できる生徒が8割を目標とする） ◎考査で初見の長文を出題して、実践的な読解力を確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見をもち、述べることができる。話し合い活動では他の意見を傾聴し、見方・考え方を広げようとする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目にそって、さらに多面的・多角的な見方考え方を深められるよう、授業内の発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートをファイルにストックし、生徒自身が自らの成長を把握できるようにする。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・より多面的・多角的な見方・考え方ができる生徒を増やすために、様々な意見を取り上げる学習指導案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の活用に関して、より考え方が深まるように工夫すると同時に、資料を短縮したり登場人物の位置関係を分かりやすいイラストで説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期末にワークシートを引用しながら個人内評価を行うとともに、成長が見られた点を励まし、更なる成長につなげる。

問 総合的な学習の 時	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の事前学習も進路学習も意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の特性に合った進路選択ができるよう個別に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎進路希望調査や面談を活用して見通しをもった進路指導を全員に行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行が中止になったことを受けて、調べ学習に対する生徒の意欲が低下してしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的にプレゼンテーションを行うことを意識させて、修学旅行の事前学習として調べたことの発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員に発表させ、効果的なプレゼンテーションについて考えさせる。